

福島県沖までやってくる親潮の源は、ベーリング海やオホーツク海です。北の海は栄養塩が豊富なため、プランクトンが大量に発生します。そこでは、多くの魚が育ち、それらをエサとするさまざまな海獣類(海にすむ哺乳類)や鳥類が生活しています。このコーナーでは北の海にすむゴマフアザラシ、トド、セイウチ、ラッコを紹介しています。

(4) タイヘイヨウセイウチ(セイウチ科)

体長は最大4.2mにもなり、体重はメスで900kg、オスで1500kgになります。ベーリング海やチュコート海の沿岸や流氷域に分布しています。体色は茶色から明るい黄褐色で、胸から腹にかけて濃い色をしています。

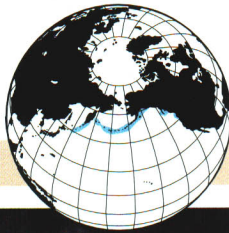
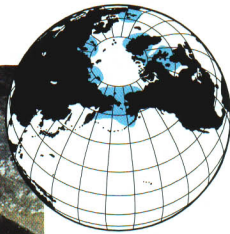
オス・メスともに大きなキバがあり、海から上陸するときや、オス同士が争うときなどに使います。主に二枚貝類を食べますが、その他にエビ類、カニ類、タコ類、ナマコ類など40種類ほどの無脊椎動物を食べています。口のまわりに生えているたくさんの固いヒゲで海底の貝やエビ、タコなどを探し出し、貝などは見つけると中身だけを吸い込んで食べます。



▲北の海の家獣



▲セイウチ



(5) アラスカラッコ(イタチ科)

アリューシャン列島からアラスカにかけて分布しています。毛の色は褐色、灰褐色、黒褐色などがあります。体つきは胴長で4本の足は短く、後脚には水かきがあります。陸上にはめったに上がりずほとんど水上で生活し、岩の多い磯にすみます。

ウニ、カニ、貝類をおおむけになって、胸の上の石に打ちつけて食べることもあります。約3年で成熟し、1頭の子を1年おきに産みます。ラッコは皮下脂肪をほとんど持っていないため、保温性のよい毛皮の間に空気を入れること



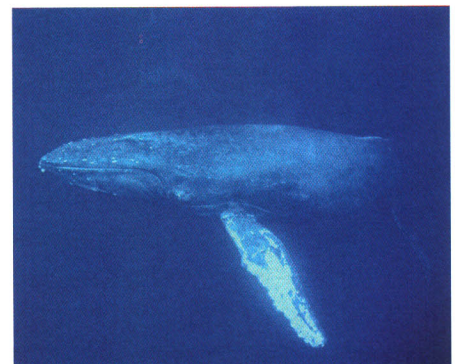
▲ラッコ

で直接海水が体に触れないようにして、できる限り体温が下がらないようにしています。また、一日に体重の20~30%にあたる大量のエサを食べてエネルギーを補給しています。

(6) 北の海にすむ海獣たち

北の海は栄養豊かで、エサとなる生物が豊富であるため多くの海獣類が生活しています。ミンククジラやザトウクジラなど、口の中に櫛状のヒゲを持つヒゲクジラの仲間には大量のオキアミや小魚をヒゲでこして食べます。また、マッコウクジラやツチクジラなどの大型の歯クジラ類やイシイルカ、ネズミイルカなどの小型歯クジラ類は魚やイカを食べます。

アザラシの仲間では、ワモンアザラシやタテゴトアザラシが分布しています。これらのアザラシはゴマフアザラシやゼニガタアザラシと異なり、外洋に生息し、沿岸で見られるのはまれです。



▲ザトウクジラ